

学校教育目標「夢と志をもち、未来を切り拓く子どもの育成」

児童に身に付けさせたい資質・能力「主体性」「協働性」「自己調整」

研究主題

自ら学びを調整し、学び続ける学習者の育成  
～リフレクションの工夫を通して～

研究仮説

単元や本時の学習過程においてリフレクションを意図的・構造的に位置づけ、方略選択・調整・評価の視点に基づいた振り返りの質を高めることで、児童は自らの学び方や課題を捉えて学びを調整し、主体的に学び続けることができるであろう。

自己調整サイクルとリフレクションの流れ

見通す  
(課題の理解・方略の選択)

(課題の理解・方略の選択)

実行する  
(学習の展開・方略の活用)

(学習の展開・方略の活用)

振り返り (活動の場)  
(可視化・意味付け・次へつなぐ)

(可視化・意味付け・次へつなぐ)

児童の思考の流れ：リフレクション

方略選択リフレクション  
どのように取り組むか考える

学びを調整しながら、  
よりよい学びへと導く  
思考の働き

方略評価リフレクション  
学習の成果や方法を評価し  
次につなげる

方略調整リフレクション  
うまくいっているかを見直し  
方法を調整する

～リフレクションの特徴～

- 授業のあらゆる場面で起きる ○意識的にも無意識的にも働く
- 対話・表現・試行錯誤の姿など、様々な形で行われる ○学びを深め、調整し、次へつなげる

振り返り (可視化・意味づけの場) でリフレクションを整理し、次の学びへつなぐ

振り返りの活動を通して...

可視化する (表す)

考えや気づきを  
言葉や図、表などで  
表し、見えるようにする

整理する (まとめる)

学びの過程や成果、  
課題を整理し、  
構造化する

意味づける (価値づける)

「なぜそうなったのか」  
「どんな学びだったのか」  
を考え、価値づける

次へつなぐ (生かす)

次の学習の見通しを持ち、  
新たな課題に向けて  
行動につなげる

児童の姿 (目指す姿)

- 自分の学び方を理解し、よりよく調整できる
- 課題を自ら見つけ、解決に向けて行動できる
- 主体的に学び続けることができる

目指す学習環境

個別最適な学び

一人一人の理解度や特性に応じて、自分に合った学び方を選択し、調整できる環境

協働的な学び

対話や協働を通して、他者の考えを取り入れ、自分の学びを深められる環境

安心して学びに向かえる環境

失敗や試行錯誤を大切にし、挑戦を支える温かい学級・学校の風土